

競技注意事項

1 競技規則について

2023年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項による。

2 招集について

- ①第3ゲート（1500mスタート地点後方）に招集所を設置する。競技者は招集開始時刻に集合すること。
- ②円盤投・ハンマー投は、投てき場にて現地招集とする。
- ③招集開始及び完了時刻は競技日程に記載する。
- ④招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
※ 第2競技場からスタジアムまでの距離が遠いので、競技者は時間に余裕を持って行動すること。
- ⑤招集完了5分前までに招集所で待機し、最終点呼を受けること。その際アスリートビブス（ナンバーカード）、競技用靴等の点検を受けること。
- ⑥招集は、本人が招集所において受けること。ただし、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。この場合代理人を認める。
- ⑦リレーに出場する競技者で、同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。

3 アスリートビブス（ナンバーカード）について

- ①アスリートビブス（ナンバーカード）は胸と背に1枚ずつ確実につけること。
女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように4ヶ所で確実に留めること。
ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に1枚つけるだけでよい。
- ②トラック種目では、腰ナンバーを右腰後方につけること。
腰ナンバーは招集所にて配布するので、競技者各自が持ち出し、競技終了後は各自の責任において持ち帰り、処分すること。
- ③ランニングシャツの形状により、裾を外に出して出場する場合は、必ず腰ナンバーが見えるようにすること。

4 競技場で使用する競技用靴について

- ①スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
いずれの場合もスパイクピンの数は、11本以内とする。ピンの形状は全天候舗装の競技場で使用できる物とし、土のグラウンド用のピンを使用することは禁止する。
- ②靴底の厚さは以下のとおりとする。（このルールは2024年10月31日まで適用）

800m未満のトラック種目	20mm以内
800m以上のトラック種目	25mm以内
三段跳	25mm以内
三段跳以外のフィールド種目	20mm以内

- ③靴底の厚さの検定は必ず実施するものではないが、招集所審判長およびトラック・フィールド各審判長の判断により、検定を実施する場合がある。

5 棄権について

出場種目を棄権する場合、本大会においては特に申し出なくとも良い。

招集完了時刻に競技者が競技会場に来ておらず、同一時刻に他種目に出場する旨の連絡もない場合は、棄権したものと見なす。

6 練習について

- ①練習会場は第2陸上競技場を使用し、別に定める練習会場使用方法に従って、安全に留意して練習を行うこと。
- ②第2競技場のメインスタンド下雨天走路は、ジョギングと体操のみ使用を許可する。第2競技場のバックスタンド外側の雨天走路は、ドリルや流し等の使用を許可する。雨天走路は一方通行で使用する。
- ③8時から競技開始15分前までは、カンセキスタジアムでの練習を許可する。トラックの使用区分は別に定める。ただし、跳躍・投てきピットおよび芝生フィールド内での練習は認めない。
- ④カンセキスタジアムのバックスタンド下雨天走路は、8時から使用可とする。使用区分は別に定める。衝突事故に注意し、安全に使用すること。
- ⑤練習に際しては競技役員の指示に従って安全に練習すること。
- ⑥第2競技場の開放時間・場所については、栃木陸協 Web サイト等でも別途提示する。
- ⑦投てき練習については、競技場所での競技前の練習試技のみとする。
- ⑧カンセキスタジアム1階管理通路および2階の外周での練習は不可とする。総合運動公園内園路はジョギング程度なら可とする。(ただし集団での走行、リレーのバトンパスをしながらのジョギング等は禁止とする。)選手・関係者及び公園の一般利用者の安全確保のため、ジョギング以外の練習は禁止する。(メディシンボール投げやハードルを用いた練習等も禁止。)
- ⑨第2競技場の利用時間は17時30分頃までとする。これ以降の練習は、カンセキスタジアム内にて行う。

7 競技者の入退場について

- ①招集後のスタジアム内への入場は、第3ゲート(1500mスタート地点付近)のみとする。競技終了後は競技の妨げとならないように注意し、最寄りのゲートから退場する。
- ②競技開始以降のスタジアム内競技場所への出入りは競技者のみ許可する。付添人・指導者等の入場は不可とする。
- ③トラック競技に出場する競技者は、フィニッシュ後はバックストレート側を通過してスタート地点に戻る。フィニッシュ後にメインスタンド前を通らないこと。
- ④フィールド競技者も他の競技の妨げとならないよう、係員の指示に従うこと。

8 トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順等について

- ①トラック競技の予選の組・走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムに示すので、審判員の指示に従うこと。
- ②リレー競走に出場するチームはリレーオーダー用紙を作成し、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までにT I Cに提出する。リレーオーダー用紙はT I Cで配布する。また、事前に栃木陸協 Web サイトにもリレーオーダー用紙を掲載する。
- ③リレー競技に出場するチームは、原則として同一ユニフォームで参加しなければならない。ただし、同一のチームと判別可能であれば、形状が異なるユニフォームを着用しても良い。
- ④タイムによる次のラウンドに進む出場者の決定については、次のとおりとする。同記録があり、レーン数が不足する時の処置は、写真判定主任が0.001秒単位の実時間を判定して出場者を決定する。それでも決定できない時は抽選とする。(TR 21)

9 跳躍競技（高さ・踏切板の距離）について

（※審判長の判断で、変更することもある。）

種目		練習	試技
走高跳	男子	1.65 1.90	1.70～1.75～1.80～1.85～1.95～2.00～2.05～2.08・以後 3cm
	女子	1.35	
棒高跳	男子	2.70 4.00	2.80～3.00～3.20～3.40～3.60～3.70～3.80・・・
	女子	1.70 2.50	

- ①上記以後の高さについては、跳躍審判長の指示による。
- ②第1位決定のバーの上げ下げは走高跳 2 cm、棒高跳 5 cmとする。
- ④雨天の際は協議の上、高さを変更することもある。
- ⑤三段跳における踏切板の距離については、男子は 11m・女子は 9mとする。

10 競技用器具について

- ①競技に使用する用器具は、検査を受け合格したものについてのみ使用できる。ポールの検査は、招集後現地にて行う。やりの検査については、別途指定する。
- ②検査で合格したやりについては、主催者にて預かり、主催者のものとして使用する。
- ③棒高跳・投擲競技における滑り止め（炭酸マグネシウム）は、本競技会では準備しない。
- ④滑り止めを使う場合は、競技者が各自持参すること。なお、他の競技者と共有しないこと。

11 表彰について

国体予選の部で各種目優勝者には賞状を授与する。

12 競技について

- ①国体予選の部は、トラック競技は予選及び決勝ラウンドを実施する。参加者が少ない場合や気候を鑑みてラウンド数を少なくすることが適当と主催者が判断した場合は予選を実施せず決勝のみ実施する場合もある。フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）はトップ 8 による 6 回試技を実施する。
- ②記録会の部はオープン種目とし、トラック競技はタイムレース決勝のみ実施する。フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）は 3 回の試技までの実施とする。
- ③トラック競技は、不正スタート 1 回で失格とする。
- ④長距離種目においては競技運営上、下記の所要時間を超えた場合、新しい周回に入れない。
少男 A5000m は 20 分。少男共通 5000mW は 30 分。
競技運営上、著しく遅れた選手に審判長が競技を中止させる場合がある。
- ⑤リレーについて
ア) リレーには各団体および各学校から複数チーム出場することができる。
イ) リレーチームの競技者が何らかの理由で欠場し、リレーチームの編成ができない場合、当該団体・学校の競技者で他の種目に出場している選手をリレーメンバーとして起用することは認める。
- ⑥3000m以上の種目で 1 回のレースに多数の競技者がいる場合、グループスタートを行う。
- ⑦3000m以上の種目の給水については、主催者側が給水所と飲料水を用意する。
- ⑧各競技の結果は Web 上の速報サイトに掲載する。
- ⑨各競技の開始時刻や招集時刻については、プログラムに記載されている競技日程が正式なものである。 栃木陸協の Web 速報サイトに記載する競技開始時刻や招集開始時刻は、コンピュー

ータシステムの不具合により、誤った表記をする場合がある。競技日程等については、必ずプログラムに記載されている事項を確認すること。

⑩抗議については、TR 8 による。

⑪助力については、TR 6 による。

14 その他

①T I C (Technical Information Center) をスタジアム 2 階ゲート A 内に設置する。

T I C では、参加団体受付、オーダー用紙の取扱い、競技に関する抗議の受付、プログラム訂正の受付、遺失物保管などの業務を行う。

②競技中の傷病などについては、主催者が応急手当をするが、以後の責任は負わない。

③各チームのスタジアム内待機場所については、栃木陸上競技協会が指定した場所とする。第 2 競技場の 2 F コンコースは各団体が譲り合って使用すること。競技場外の公園敷地にテントを設置することは一切禁止する。

各チームベンチとして、雨天練習場・更衣室・ダッグアウト等を占領してはならない。

雷発生時などの非常時には、競技役員の指示にて屋内に避難する。

④スタジアム内雨天走路の使用については、本競技会では使用不可とする。

⑤スタジアム内 1 F のトイレは、100m スタート付近の正面スタンド内トイレを使用すること。出入りについては 100m スタート付近からの出入りに限定する。

⑥更衣室については、男女ともスタジアム 2 F トイレ内の更衣スペース等を使用する。

⑦熱中症対策として競技終了後の選手のみ、スタジアム 1 F の更衣室・シャワー室の使用を許可する。ただし、長時間滞在しないこと。

⑧第 2 競技場の更衣室も使用可とする。ただし更衣室内に長時間滞在しないこと。

⑨第 2 競技場の会議室を整理運動後の休憩場所として開放する。

15 災害時の避難場所

会場責任者の判断により避難の放送が入るので、避難誘導係の指示に従って落ち着いて行動すること。雷発生時などは、競技役員の指示にて屋内に避難する。

16 新型コロナウイルス感染拡大防止に関する事項

①新型コロナウイルス感染拡大状況により、参加申込み完了後に競技会を中止とする場合もある。日本政府または各都道府県による緊急事態宣言が発令した場合などは、県外在住の参加者に対して参加を断る場合もある。その際は栃木陸協 Web サイト等で通知する。また、競技中に発雷等で天候が悪化した場合は、その時点で競技会を中止する場合もある。

②有観客での競技会開催とするが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、無観客に変更する場合がある。その際は栃木陸協 Web サイト等で通知する。

③競技会直前に発熱等の症状が出た者は、参加を控えること。

④競技会開催中に体調の異変を感じた場合は、速やかに代表者や顧問教諭に連絡し、主催者の指示を受けること。

⑤マスクの着用は個人の判断とする。その他各チーム等の方針に則る。ただし、発声を伴う応援（集団応援も含む）の際はできる限りマスクを着用する。

⑥運動中につばや痰を吐くことは極力行わない。

⑦ゴミは自己責任で持ち帰る。

⑧その他、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対応については、栃木陸協 Web サイト等で周知する。

※ **本大会は全国都道府県対抗男子・全国女子駅伝競走ならびに東日本女子駅伝大会の栃木県選手選考会を兼ねる。**

【男子 5000m 男子 3000m 女子 5000m 女子 3000m】